

大泉中学校第3学年の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。計画的に学習は進んでいますか。国語科の課題では、「情報社会を生きる～メディア・リテラシー」と「握手」の2つの文章を読んでワークシートに取り組んでいることと思います。

今回は「情報社会を生きる～メディア・リテラシー」を読むにあたってのアドバイスをしたいと思います。①と②では「説明的文章に共通して言えること」について、③では「今回の文章に特有のこと」についての助言になります。



●情報社会を生きる～メディア・リテラシー

①説明的文章は筆者の「理解してほしい!」という思いのカタマリ

説明的文章は、筆者が「読者に理解してほしい!」という思いを込めて文章を作っています。つまり、我々読者は「筆者は何を理解してほしいのか」を見極める必要があります。

そのポイントになるのが段落です。説明的文章では、「伝えたい段落」(筆者の主張)と「分かりやすくする段落」(事例やたとえ話、データなど)が用意されています。この2つの段落を見極めましょう。

②説明的文章の肝＝接続詞

④段落「ところが」、⑥段落「つまり」、⑦段落「だからこそ」などといった接続詞が出てきたら要チェック。そこには重要なポイントが述べられています。「ところが」などの逆接の接続詞ならこれまでの話の流れが逆になりますし、「つまり」などの説明の接続詞なら今までの話をまとめることになります。こういった接続詞のもつ役割を理解しましょう。(参考:すら文 p.40-41)

ちなみに、逆接の後には筆者の伝えたいことや強調したいことが書かれている傾向にあります。

③「情報社会に生きる」のか「情報社会を生きる」のか

タイトルは「情報社会を生きる」ですが、p.135の15行目には「情報社会に生きる」とあります。たった1文字の違いですが、何が違うのかを考えることが重要です。この2つの違いを考えながら、筆者の主張を説明してみてください。

今回のアドバイスは以上です。次回は「握手」についてのアドバイスをしたいと思います。

国語科担当 鈴木、梶

